鎌倉時代建長のころ将軍宗尊親王堂塔を再建した。徳川家康は慶長六年寺領一五〇石を与え十万石の格式をゆるし本山格にした。

本尊の延命観世音菩薩は弘仁期の作で鎌倉期の前立如意輪観音と共に国の重要文化財に指定され、又愛染明王画像、弁財天画像、十一面観音画像はいずれも県指定の文化財である。その他明暦のころ建立の本堂、宝暦のころ建てられた客殿、本坊天正年間といわれる黒門、その他か本県に二つしかない多宝塔（天正年間真壁城主真壁家幹の寄進）など見るべきが多い。

8　勝田新左衛門武堯の墓。楽法寺黒門前の小墓地にある。赤穂義士の一人で勝田家は代々この地に住んでいたが父の代に当時笠間候だった浅野家に仕え後藩公と共に赤穂に転居した。

武堯の死後母は二男新兵衛をつれ故郷に帰り帰農す。今尚子孫この地に住み遺品を所蔵している。墓は泉岳寺のと同型である。

9　一向寺、桜川から少し離れているが新治郡家跡のある協和町の小栗にあるので載せることにする。この寺はもと時宗だったが、今は浄土宗になっている。この寺は浄る璃で名高い小栗判官と照手姫の墓があるので知られている。小栗城主小栗判官助重は父満重が足利持氏に抗し城陥るや陸奥に逃れ、将軍義教が持氏と不和なるを利用し旧地を回復せんとし小栗城に帰り兵を出さんとしたが持氏敗死（永享の乱）したので、その子春王、安王を結城城に攻め之を降れた。その功により旧邑を復することができたが康正元年上杉持朝、足利成氏と小手指原に戦って敗れ小栗氏は遂に助重で滅びた。この助重と遊女照天姫の説話を主題として江戸時代に説教節や浄る璃、歌舞伎等に上演されたもので近松門左衛門が藤沢寺の縁起（神奈川県藤沢市にある時宗の総本山）によって書いた「当流小栗判官」が初めで、その他多くの改作がある。

（以下次号）

〈筆者・文化財保護委員〉